〔本朝文粹八詩〕八月十五夜、侍亭子院同賦月影滿秋池、應太上法皇○宇多製、　菅淳茂

洛陽城內、有一離宮、竹樹泉石如仙洞爾、蓋世之所謂亭子院焉、太上法皇雖入三密之道、出萬乘之家、猶未捨此地風流、以助彼岸寂靜、故今商飈半暮之秋、漢月正圓之夕、阿耨池淨、摩尼光浮、懸鑾鏡於波心、似楊州之鑄出、浸冰綃於潭面、如泉室之織成、況珠露萬點、倚荷葉而助桂花、玉沙數重、穿魚衣而宿蟾影、水月之相應、空觀自生、心目之不離、煩慮卽滅、宜哉我后、偏命斯遊、既而其屬事者千萬種、其應製者八九人、俗物去而無來、囂塵絕而不起、詠歌一曲、奏水閣之秋聲、盃酌數行、促華池之夜宴、嗟呼天氣爽也、地形勝也、物色幽也、人心切也、筆不毛擧、聊記口談云爾謹序、

〔新勅撰和歌集四秋〕延喜御時、八月十五夜月宴歌、　源公忠朝臣

いにしへもあらじとぞ思ふ秋の夜の月のためしはこよひなりけり

〔中右記〕寛治八年○嘉保元年八月十四日、明夕爲御覽月、可有乘船興、著布衣可參入之由、從鳥羽殿○白河上皇有召、十五日、午時許候大納言殿御車後、參入鳥羽殿、○略中殿上人船、頭中將國信朝臣四十人許、皆布衣、此外御隨身、副小船前行、先出御船、有御遊、藤大納言拍子、帥大納言琵琶、左大將箏、宰相中將笛、宗忠笙、有賢和琴、皇大后宮權大夫幷政長朝臣付歌、先雙調、紀伊州、席田、鳥破急、平調、大平樂破、伊勢海、廻急、五常樂急、帥大納言朗詠、盤涉調、秋風樂三帖、青海波、蘇香急、各及數反、于時雲收天末、月明池上、絲竹之調興入幽玄、○略下

〔御湯殿の上の日記〕慶長八年八月十五日はるゝ、めい月の御さか月一こん參る、せいりやうでんへならしまして、月おがませらるゝ、女ゐんの御所より、まき御てうし參る、

〔榮花物語一月宴〕康保三年八月十五夜、月宴せさせ給はんとて、清涼殿の御前にみなかたわかちて前栽うゑさせたまふ、○略中御遊ありて上達部おほくまゐり給て、御祿さまざまなり、

〔日本紀略四村上〕康保三年閏八月十五日丙子、御座前兩壺分方、有前栽合、